アジア・ビジョン研究所(AVI)
「プレ日 ASEAN 友好協力50周年セミナー」
林大臣開会挨拶
(2022年8月6日(土曜日))

御参加の皆様、

本日は、カンボジアの若き精鋭の集まるシンクタンクである、アジア・ビジョン研究所(AVI)による本セミナーに御招待いただき感謝いたします。ASEAN55周年という記念すべき年に、外務大臣就任後、こうしてカンボジアを初めて訪問し、プラック・ソコン・カンボジア副首相兼外務国際協力大臣と共に本セミナーに参加できることを光栄に思います。また、3月の日カンボジア首脳共同声明で確認された AVI との知的交流が、このように進んでいることを非常に嬉しく思います。

コロナによる困難に負けず、3年ぶりに対面で行った日 ASEAN 外相会議は、日 ASEAN 協力の成果を確認し、今後の展望を描く、強固な日 ASEAN 関係の象徴となりました。改めて、会議開催に向けた ASEAN 議長国カンボジアの尽力に深謝いたします。外務大臣就任前から長年に亘り、議員外交を通じた機会に、東南アジア諸国に赴き、現地の関係者と直接交流してまいりました。私としても、日 ASEAN 関係の重要性を実体験をもって理解しており、その関係の着実な発展を心から歓迎いたします。

また、ASEAN 関連外相会議の直後というタイミングで実施される本セミナーにおいて、日 ASEAN 協力の軌跡と成果、その更なる発展について闊達な議論が行われることは大変有意義だと考えます。現在、ASEAN と日本を含むインド太平洋地域の環境は、ミャンマー情勢、東シナ海・南シナ海における力を背景とした一方的な現状変更の試み、北朝鮮による核・ミサイル活動といった課題に加え、ロシアによるウクライナ侵略による法の支配に基づく国際秩序への挑戦や、これに伴うエネルギー・食料価格の高騰といった世界経済の不安定化など、厳しさを増しております。

そうした中にあるからこそ、太平洋とインド洋という「2つの海の交わり」に位置する ASEAN の重要性は益々増しています。日本と ASEAN は、主権や領土の一体性、法の支配といった主要な原則、そして、インド太平洋地域において、ルールに基づく自由で開かれた国際秩序を推進するとの見解を共有する戦略的パートナーです。日本は、ASEAN の中心性を強く支持しつつ、日 ASEAN 関係を更に大きく飛躍させていく決意です。また、現下の複雑な国際情勢において、ASEAN 議長国として、ミャンマー問題への対応を含め、リーダーシップを発揮して尽力するカンボジアに敬意を表し、今後もカンボジアの取組を支援していく所存です。

先日、卑劣な蛮行により凶弾に倒れた安倍元総理は、日 ASEAN の友好・発展に多大なる貢献をしました。2013年の日 ASEAN 友好協力40周年の特別首脳会議では、フン・セン首相をはじめとする ASEAN 首脳と共に、「ビジョン・ステートメント」を採択し、それ以降、日 ASEAN 関係は、①平和と安定、②繁栄、③より良い暮らし、④心と心、というパートナーとしての4つの包括的な協力を通じ、大きく発展してまいりました。そのパートナーシップが単なるレトリックでないことは、ビジョン・ステートメントの実施計画が、現時点で既に100%達成されていることから明らかです。

また、日本が提唱し、今やファン・セン首相をはじめ多くの国々の首脳からも支持いただいている「自由で開かれたインド太平洋(FOIP)」と、ASEANが提唱する「インド太平洋に関するASEANアウトLOOK(AOIP)」とは、本質的な原則を共有しています。日本は、AOIPの優先協力4分野に沿って、具体的な協力を着実に実施しています。6月のシャングリラ・ダイアローグで岸田総理は、「平和のための岸田ビジョン」を表明し、国際社会が直面する挑戦・危機の中、ルールに基づく自由で開かれた国際秩序の維持・強化に積極的に取り組む決意を示しました。岸田ビジョンの下、日本はFOIPの新たな展開を進め、海上法執行能力強化、サイバー、デジタル、グリーンなどの分野にも重点を置いた「平和のためのFOIPプラン」を示すべく取り組んでいます。

来年は、日ASEAN友好協力50周年という歴史的な節目です。他の域外国に先駆けてASEANとの協力と対話の枠組みを1973年に設けた日本としては、来年ASEAN各国の首脳をお迎えして特別首脳会議を開催し、日ASEAN関係の将来のビジョンを打ち出したいと思っております。その重要な年に向けた機運を高める布石として、今回の日ASEAN外相会議において、50周年のオフィシャル・ロゴマークとキャッチフレーズ「輝ける友情、輝ける機会」を日ASEAN共同で発表できたことは、大変喜ばしいことです。

日本は、日ASEAN関係の更なる発展に向け、今後もASEANと緊密に連携してまいります。御静聴ありがとうございました。

(了)